

日本人が初参加したハーミット・プロジェクトは「はじまりの予感」



プラシ修道院
倉庫として
使われていた建物で
水留、天野豊久、
有地左右一+笹岡敬が
制作を行なった。

一九八九年のビロード革命によつてスロバキアと分離したチエコ共和国。その首都布拉ハから列車で二時間ほどかかる小さな町がある。ここでは、九二年からハーミット・プロジェクト(ハーミット財団主催)といつアーティスト・イン・レジデンスが催され、毎年各国のアーティストが参加しているのだ。今年のハーミット・プロジェクト一九九七「Near the Beginning(はじまりは近い)」は、東京・神田におけるCAEUEとフランス人アーティスト、クリストフ・シャルル氏の呼びかけにより日本人アーティスト九名が初参加。そのほか東欧各国、アメリカからもアーティストが集まりその数は五十

人となり、プロジェクトは「はじまりの予感」ところに、ブリヂストンの田園風景の広がる小さな町がある。ここでは、九二年からハーミット・プロジェクト(ハーミット財団主催)といつアーティスト・イン・レジデンスが催され、毎年各国のアーティストが参加しているのだ。今年のハーミット・プロジェクト一九九七「Near the Beginning(はじまりは近い)」は、東京・神田におけるCAEUEとフランス人アーティスト、クリストフ・シャルル氏の呼びかけにより日本人アーティスト九名が初参加。そのほか東欧各国、アメリカからもアーティストが集まりその数は五十

水留周二
Star
on the Egg

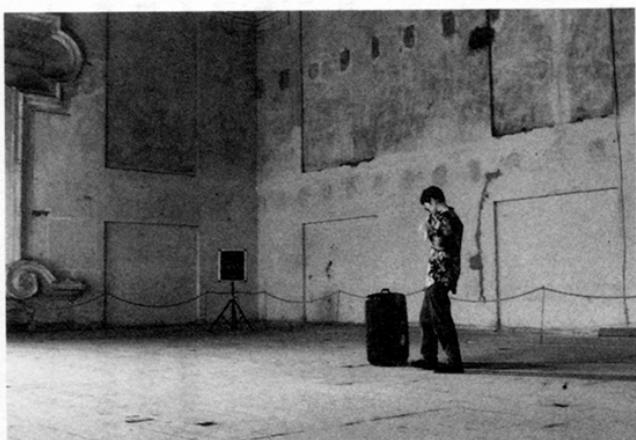


会場は中世の面影をいまに残すプラシ修道院。現在も信者が訪れ、祈りを捧げている教会の一部や倉庫として使われていた建物、屋外などである。以前修道僧が生活を営んでいたその場所で滞在制作が一週間、そして八月三十日から九月三十日までの一ヶ月間、展示が行なわれた。

地下室を制作場所に選んだ水留周二は、母胎に生命が宿り成長していく過程を小さなガラスの破片に描き、壁面に光を使って投影させた。真夏にもかかわらず凍えるほど冷たい地下室が、生と死が交錯する小宇宙と化したのだ。また千野秀一のサ

地下室内を制作場所に選んだ水留周二は、母胎に生命が宿り成長していく過程を小さなガラスの破片に描き、壁面に光を使って投影させた。真夏にもかかわらず凍えるほど冷たい地下室が、生と死が交錯する小宇宙と化したのだ。また千野秀一のサ

ウンド・パフォーマンスは、コンピュータで制御され、影が動くとそれに反応し音が出るというもの。閉鎖され埃にまみれたその場所に、観客が足を踏み入れると、偶然のハーモニーが生まれる。まるで修道僧の足音やささやきが再生されたかのようだ。ほかにも会場には、この場をさまざまな解釈によつてとりいれた作品が無数に現われた。自身のアトリエから離れ、未知の空間と出会い、制作をする」と。アーティスト・イン・レジデンスとは、自らの表現を極限まで探求していく者たちが集う場である。そして互いの制作過程を開くること、生活をともにする」と。そこでおこる多様な出来事すべてが滞在制作の意味となりつつある。この活発なコミュニケーションによって、アーティストの知覚と感覚はさらに覚醒へと導かれるのだ。



千野秀一の
サウンドパフォーマンス
Mushi Mezuru -
Caressing Insects

これが普遍的、客観的なものとしてどうえてくることが、じつは不安定なものではないか? 真に認識を共有することは可能なのか? という問いを投げかけているのだ。その検証が、新しい芸術活動の「Near the Beginning(はじまりは近い)」である。

文：本多路子

*「ハーミット・プロジェクト1997 NEAR THE BEGINNING」は、11月17日(火)～11月22日(土)まで、ギャラリー・サージ(東京都千代田区岩本町2-7-13 渡辺ビル1階)03-3861-2581)で開催される。

http://www.sakai.or.jp/mshinol/